

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2270600543
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティかもがわ
所在地 (電話番号)	三島市加茂川町 3-32 ( 055-976-4180 )
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年9月25日

## 【情報提供票より】(平成21年08月01日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年11月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人/ 非常勤 6 人/ 常勤換算 7.7 人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り 2 階建ての1 階～ 2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000円	その他の経費(月額)	13,000円
敷 金	有( 円)	〇無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 65,000円	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

### (4) 利用者の概要(平成21年08月01日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	8 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	3 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 62 歳	最高 102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック ・ 石田歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは三島大社に近く、富士山を臨み、台場川の東岸の住宅地にある。開設してから4年近く、当初からのホーム長の下に職員と連携し、理念に「私たちは その人らしく 日々心安らかに 楽しく明るい 家庭を築きます」を掲げ、日々利用者の支援が行われている。利用者は理念の通り思い思いにゆったりと暮らしており、職員は生き生きと介護に当たっている。ホーム長は恵まれた立地条件を生かし、職員のやる気を引き出している。この1年の退職者0・運営推進会議の2ヶ月に1回の着実な開催・自己評価への全職員での取り組みが印象的だった。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された理念の共有化・ターミナルに向けての取り組みは改善された。職員の外部研修への参加・同業者との交流・災害対策への近隣住民の参加には課題を残している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解しており、今回の自己評価は、1・2Fユニット共に全職員が10項目以上を分担し、ユニット毎に話し合い、それをホーム長が纏めた。1・2Fユニットの特徴が捉えられており、職員からは自己の介護の見直しのきっかけとなつたの印象が語られた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政や地域の理解と協力の下に、18/10以降運営推進会議は2ヶ月に1回着実に開催されている。町内会長や民生委員・知見者・介護相談員・地域包括センター職員等が参加し、それぞれの情報を持ち寄り、おしゃべり半分に気楽に行われている。町内の敬老会や花祭り等への参加が広がってきている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、ホーム長自らのお便りでも気楽に相談するよう呼びかけている。特に苦情は出ていないが、面会時や運営推進会議等で利用者の暮らしについての意向や要望を聞き、ユニット毎に話し合い、家族とも連携して適切に対処している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、自治会長等の理解により、回覧板や公民館の使用許可も得ている。町内の清掃活動や敬老会への参加・三島大社の祭り・保育園児との交流・ボランティアの受け入れ等が行われており、地元との交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時職員全員で考えた「私たちは その人らしく 日々心安らかに 楽しく明るい 家庭を築きます」をホーム独自の理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関と2Fホール入口に掲示し、職員の意識付けを図っている。目先の忙しさにとらわれ、理念が単なるお題目にならないよう常に頭の隅で意識して介護に取り組むよう努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、自治会長等の理解により、回覧板や公民館の使用許可も得ている。町内の清掃活動や敬老会への参加・三嶋大社のお祭り・保育園児との交流・ボランティアの受け入れ等が行われており、地元との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は評価の意義を理解しており、今回の自己評価は、1・2Fユニット共に全職員が10項目以上を分担し、ユニット毎に話し合い、それをホーム長が纏めた。1・2Fユニットの特徴が捉えられており、職員からは自己の介護の見直しのきっかけとなったと言われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や地域の理解と協力の下に、平成18年10月以降運営推進会議は2ヶ月に1回着実に開催されている。町内会長や民生委員・知見者・介護相談員・地域包括支援センター職員等が参加し、それぞれの情報を持ち寄り、おしゃべり半分に気楽に行われている。町内の敬老会や花祭り等への参加が広がってきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の利用者も居り、密に報告・連絡・相談を行っている。また、市主催の地域ケア会議や伝達会議等に参加し、利用者の生活について市の担当者と連携してサービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム長自らコメントを加え、前月の様子を個々に記入した「かもがわからのお便り」を家族に送付している。カレンダーの中に各種行事・体重測定日・ボランティア来訪日等を書き込んでおり、家族も楽しみにしている。また、面会時や電話でも必要な連絡や報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、お便りでも気楽に相談するよう呼びかけている。特に苦情は出ていないが、面会時や運営推進会議等で利用者の暮らしについての意向や要望を聞き、ユニットで話し合い、家族とも連携して適切に対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の安定に最大限注力しており、この1年退職者は0である。新しい職員には先ずホームの雰囲気慣れ、利用者を理解し、馴染みの関係作りに取り組み、利用者にはダメージを与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の仕組みは出来上がっており、資格取得の奨励制度も在る。年2回の新人研修や5月には法人内の他のホームに1F職員全員で出かけ、交流を図ったりしている。職員のスキルに応じたOJT(実務研修)も行われているが、職員ヒアリングではレベルに合った外部研修を望む声が聞かれた。	○	利用者のレベル低下への対応のためにも、職員の育成は重要な課題である。職員の資質・経験・介護力等のレベル分析に基づき、最低限これだけという年間研修計画の策定を検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流は行われ、管理者が他のグループホームを訪問したり、地域ケア会議やグループホーム連絡会等に出席しているが、職員が地域の同業者と交流する姿は見られなかった。	○	法人内や管理者のみならず、職員が地域の同業者と交流し、サービスの向上に繋がる取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族から生活歴等を聞き取り、ホームに馴染めるように入居前にホームを見学してもらっている。入居に当たっては家族とも話し合い、これまでの暮らし方の理解に努め、利用者と職員が早く馴染めるよう、利用者との距離の取り方等を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生経験豊かな利用者は、習字や踊りの先生、料理や農業経験者等が居り、その経験を職員が教えてもらい、支えあいながら一緒に過ごす関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から生活歴や趣味・趣向・意見や要望等を聞き取り、入所後は日常の経過観察記録や連絡ノートで一人ひとりの思いや意向を把握し、利用者本位の関わりに努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者のアセスメントにより課題を把握し、家族や職員・医師の意見を反映してケアプランを作成している。日々の支援の中で気が付いたことは、管理者に報告して職員間で情報を共有し、次の介護計画に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング表に基づき3ヶ月ごとの介護計画の見直しが実施されている。介護経過記録・申し送りノート・事前ノート等に利用者の変化を細かに記録しており、変化のある時は本人・家族の意見も取り入れて現状に即した計画に変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師は24時間対応ができる体制で、医療面において支援している。美容師の資格を持つ職員が、散髪ボランティアをしたり、家族の宿泊対応や利用者の外出・外泊の支援もしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用以前からのかかりつけ医にかかっている利用者は6名おり、絶えず連携を図っている。協力医とは家族がそれぞれ契約しており、毎週1回「木」午後往診をお願いしている。夜間や正月でも診てもらえる対応はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、看取りの指針や同意書等も用意されていて、かかりつけ医・家族等と何回も相談して本人や家族の希望に添うようにしており、出来る限りホームでお世話したいとの考えを持っている。利用者に対する介護方針は医者と話し合い、職員間で情報を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者はそれぞれの生き方・職業・年齢等から現在も誇りを高く持っており、職員は利用者がこの高い誇りを失うことがないように、声掛けや入室等に配慮している。個人情報写真は写真掲載の許可を得たり面会簿を個票に変えたりと、適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望や希望に添うようにしている。93歳の利用者がどうしても一人で一番風呂に入りたいとの希望に対しては、家族や職員で話し合い、事故防止の面から慎重に見守り、注意して希望に添うように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを考慮した献立で職員も一緒に同じ物をいただいている。畑で収穫した大根やナス等の野菜を使って料理を作り、配膳・片付けなど利用者も参加しながら食事に関わっている。食事の手伝いは希望者が多く、当番制にするほどである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は利用者の意向を考えて、入浴については毎日入れるように配慮している。嫌がる人には、シャワーや足浴をしてもらっている。また、仲良し二人での入浴の支援もしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や特技を発揮してもらい、気晴らしができるように支援している。若い時料理屋にいて皿洗いが得意な人やワープロ利用者・寺社巡りが好き等の希望に応えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前道路は袋小路になっており、居住者以外の車は通らず、日常的な散歩がしやすい。近くの三島大社に天気の良い日にはお参りに行っており、大社内には出店があり、そこでお菓子やおでんなど自由にお金を使う利用者も居り、職員はそれとなく見守っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は拘束であるとの認識の下に、日中は鍵はかけていない。外出する利用者には職員はそれとなく付き添い、温かく見守っている。夜間については、家族とも話しあって、事故防止の面からかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は、年2回消防署の指導で実施している。また、毎月災害訓練はホーム内で実施しているが、近隣住民の参加はこれからである。	○	災害時には近隣の協力が不可欠である。運営推進会議を利用して災害対策の必要性を提示して地域住民参加のもとでの避難訓練の実施が必要である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの歯の状態や嚥下状況に応じて、バランス良く食べやすい食事に心掛けている。職員は水分を十分補給するよう支援しているが、その記録は見られなかった。	○	高齢者の水分補給は非常に大切な要素であり、是非記録することを検討されたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広くてゆったりと作られており、廊下から畑が見渡せて、窓辺にはベンチが置かれている。居間の一角には畳コーナーが設けられており、利用者がゆったりと寝転んでいる姿がみられた。壁には手作りの季節の絵画や書・行事の写真等が飾られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのタンスやテレビが持ち込まれ、お花や家族の写真が飾られていた。習字の作品や絵画等を壁に貼ったり、窓辺に小さな植物も置かれていて、それぞれに居心地よく過ごせる部屋作りが支援されていた。		